

市民がつくる  
市民が学ぶ  
市民が拓く  
生涯学習情報誌

# Stage

月刊ステージ・アップ

---

# up

'96  
**新春** 号 【1・2月合併】

● 9月16日  
かわさき市民アカデミー特集

● 2月5日に初の「ステージ・アップ読者のつどい」



いまを話す

川崎音楽文化連盟代表 大里洋子さん  
21世紀の地域「川崎の民話をオペラに」  
社会の核は文化

Stage Up 新春 号もくじ/1996年

◇初の「Stage Up読者のつどい」	2月5日(月)に開催	3
■ほんねインタビュー いまを話す	川崎音楽文化連盟代表 大里洋子さん	4
「川崎の民話をオペラに」		
◎当事業団創立5周年記念式典・祝賀会に120人	高橋市長「青少年から高齢者までの 学習・文化・スポーツ担う事業団」	8
◆「かわさき市民アカデミー」特集	2月16日から会員(学生)募集 「学ぶというより楽しく過ごそう」	9
◆はりきってます グループ紹介	暮らしの中で造形美楽しむ 竹工芸研究会(多摩区)	18
	漢詩の心を吟ずる 朗吟研究会(高津区)	
●学習・文化情報		17、 20、 22
○読者の声・編集後記		23
◎表紙絵……………多摩川の初日の出	清水幹子さん	

(小誌は再生紙を使用しています)

第7回 かわさきニューイヤーコンサート

□かわさき新人音楽会□

'96年 1月14日(日) PM 2:00 開場 PM 2:30 開演

麻生文化センター大ホール (小田急線新百合ヶ丘駅下車)

入場料 1,000円 (全席自由)

- 出演 公開オーディション合格者  
渡辺 美奈・中山 美知・笠井 祐子・釣 由美・木下 順子(以上ピアノ)  
南條 由起(ヴァイオリン) 芹ヶ野 恵(フルート) 白岩 真紀(トロンボーン)  
古谷 享子(サクソフォーン) 山下 真理(マリンバ)  
本居 麻波・永井 雅子・鈴木 結子(以上ソプラノ独唱)
- 曲目 ヴェルディ・歌劇「アイダ」より 勝ちて帰れ マシペリュウス・ヴァイオリン協奏曲第1番 二短調作品47マラヴェル・「鏡」より 道化師の朝の歌ほか
- チケット発売 (財)川崎市生涯学習振興事業団 ☎952-5000  
当事業団情報コーナー ☎233-6250・各市民館
- 問い合わせ 当事業団小杉分室(文化イベント事務局) ☎422-3932

主催 (財)川崎市生涯学習振興事業団/川崎市教育委員会

好評前売中



第1回

## Stage Up 読者のつどい

創刊5周年・通巻50号・「いまを話す」50回

- 日 時——96年2月5日(月)午後1時30分開会
- 会 場——新百合21ホール (小田急線新百合ヶ丘駅下車、徒歩3分)
- 会 費——500円 (飲み物、軽食付)
- 申し込み——96年1月16日(火)~19日(金) 午前9時から午後5時  
☎952-5000  
川崎市生涯学習振興事業団編集室内  
「Stage Up 読者のつどい」事務局
- 定 員——120人(先着順)
- 主 催——Stage Up 読者のつどい呼びかけ人会議

## 率直に話し合い、読者のネットワークづくりへ

かわさきの生涯学習情報誌「Stage Up」は、「市民がつくる 市民が学ぶ 市民が拓く」をモットーに発行を続け5年になります。そして、1996年夏季号で通巻50号に、12月号で「ほんねインタビュー いまを話す」が50回目になります。

私たちは、市民の目と声を大切にする生涯学習情報誌が川崎で発行されていることを心から喜んでいます。同誌が今後とも「市民参加の紙面づくり」に邁進することを切望し、96年2月5日の午後のひととき、新百合21ホールで初の「Stage Up 読者のつどい」を開きます。

「つどい」はテーブルを囲み、お茶を飲みながら「生涯学習の時代とは」「今後の同誌に望むことは」などを率直に話し合うサロンです。

また、当日の出席者のご意見が、今後の川崎市の行政や同誌の紙面に確実に生かされることを願い、高橋 清市長と小島一也市議会議員に出席を要請し、内諾を得ました。

どうかお気軽にご参加下さいますようお願い致します。

〈呼びかけ人〉 飯田和子 (川崎・ごみを考える市民連絡会) 井上美佐子 (ギャラリー華沙里) 岡本善三 (元アカデミー友の会会長) 片野トシ子 (訪問看護婦) 酒井博 (多摩区の緑と水を考える会) 清水幹子 (二科会、彫刻家) 菅原陽子 (あさお・ポランの広場) 千葉茂樹 (日本映画学校副校長) 丸山博子 (ピアノ教師) 三浦敦子 (多摩区区づくり白書策定委員) 室伏陽子 (第1回事業団市民企画講座委員)

1995年12月

高橋 清・川崎市長の話 「Stage Up」創刊5周年を機に、愛読者の方々が自発的に「つどい」を開いて下さるとの報に接し、大変感激しております。先日、ある市民の方から、小誌について「市民の活動や主張、生き方を紹介する情報誌で、気持ちに張りが出る『読む健康食品』」とのありがたい評価をいただきました。「つどい」に私も出席して、多くの方々と懇談できることを楽しみにしております。

「読む健康食品」をめざして  
気軽に参加して下さい



## いまを話す

ゲスト

川崎音楽文化連盟代表

大里 洋子 さん

Vol.41



## 21世紀の地域社会の核は文化

## 「川崎の民話をオペラに」

長引く不況の中、日本人の企業帰属意識が揺らぎ、地域社会が見直されつつある。二一世紀の社会を結ぶのは文化・芸術か。川崎音楽文化連盟代表で洗足学園大学教授の大里洋子さんは、かつて藤原歌劇団のプリマドンナ。そして今、音楽家の連携と音楽文化の創造で、市民の心が豊かになることを願う。昨年、発足した「川崎市民オペラ」は、川崎の民話を題材に、市民がステージを通し市民意識を高め、オペラを身近に感じてもらう構想。また、チャイコフスキー国際コンクールの客員審査員を務めた経験から、音楽教育への疑問を呈する一方「世界に通用する演奏家が川崎で育っている」と若手育成に力を注ぐ。インタビューは、地域で音楽活動に励む丸山博子さん。

——いつもおおらかな大里さん。その人柄は、どのように培われたのですか。

大里さん 私、大陸生まれなんです。十三歳まで満州（中国東北地方）の大連で育ち、二十三歳までは東京で、それから十年は米国で暮らしました。満州では、広大な高原に沈む落日を見ながら、母と一緒に「ギンギンキラキラ夕日が沈む」と歌ったり、砂漠の中をゆくラクダを見ながら「月の砂漠を」と口ずさみました。

——雄大な大陸で、自然や音楽

を感じながら育ったのです。

大里さん 太陽の燃えるような赤、ひまわり畑の黄色、小麦畑の緑が今でも目に焼き付いています。——声楽家になりたいと思われたのは、いつごろですか。

大里さん 小学生のころは軍国の女医さんになりたいと思いません。終戦を体験して、力や競争ではなく、平和によって世界が一つになるために何かしたい。体と心で世界中に自分の思いを伝えられる声楽家が素晴らしいと。声楽は自分の体が楽器ですからね。

——小さいころから、いつも音楽がそばにあったのですか。

大里さん 両親が音楽が好きで、小学生のとき、放送局で中国や蒙古（モンゴル）ロシア、韓国の子供と一緒にその国の言葉で歌い踊り、楽しく幸せを感じていました。——それが大里さんの音楽の原点なのですか。

大里さん ええ。編入した都立高校も音楽が盛んでしたし、芸大卒業後に参加した藤原歌劇団の海外公演でも、感動的な体験をしました。ロッキーマウンテンのレッドロックシアターという野外オペラ劇場で星空のもと「お蝶夫人」を思い



## 音楽の原点 アジアの子らと原語で歌う 中・米の大自然も影響

きり歌い、踊り、自然と一緒の音楽の醍醐味を感じたんです。

——中国、米国の大自然と生活の中で音楽を体験されたのですね。

大里さん そうなんです。生活の中で感じ、そこからにじみ出てくる音楽、型に縛られない音楽。体格も含めて……(爆笑)。

——米国の人気テレビ番組「エド・サリバン・ショー」に出演されたのはその後ですか。

大里さん あの時、エド・サリバンがひと言話した後、私が歌ったの。それがリハーサルでなく本番だったので驚きました。

——虚像ではなく、ナマの人間を放映するネライも……。

大里さん そうなのでしょね。私はいつも自然体で生活したい、ほんねでのお付き合いを心掛けています。そういう生活感情で過ごすほうが楽なんです。あつ本番だからとか「あつ、この方は偉い方だから」と堅くならない、ど

なたとも同じ接し方をしているつもりです。

——自然であることは、音楽でも大切なことだと思います。ところで、一昨年(一九九四)はチャイコフスキー国際コンクールの客員審査員を務められましたね。

大里さん あの前のお正月、年賀状の中にチャイコフスキー国際コンクールの招待状が入っていたんです。これは初夢かしらと思っただの(笑い)。六月にモスクワに行

き、ホテルで世界各国から集まったチェロ、ヴァイオリン、ピアノ、声楽の四部門の審査員とご一緒させていただきました。巨匠の方々ですが、稲穂が実れば頭を垂れるように、少しも高ぶったところがなく、ごく自然で敬虔な温かい接し方でした。

——コンクールの聴衆は、日本と比べていかがでしたか。

大里さん 聴衆と審査員が一つになって若い出演者を迎え、素晴らしいと拍手を、物足りない時はブーイングもあって、とってもリアル。ロシアは経済的には貧しいでも、伝統的な芸術に支えられているので、感性は鋭く豊かです。審査員全員で「出演者や聴衆が納



昭和36年9月、米国の人気テレビ番組「エド・サリバンショー」で、歌劇「ミカド」に出演、話題になった大里さん。

### 大里 洋子さん

おおさと・ようこ=1931年、中国東北地方生まれ。終戦後、帰国し都立高校入学。56年、東京芸術大学音楽学部卒、藤原歌劇団のソリストとして海外公演。エド・サリバン・ショーにも出演し注目を浴びる。結婚と同時に米国へ留学。61年、帰国し相模女子大講師。62年、洗足学園大学助教授。74年、同大学教授。川崎市高津区下作延に65年から在住。現在、川崎音楽文化連盟代表で地域の音楽文化発展に尽力。趣味は日本画、茶道、旅行。母、二男夫婦と暮らす。

得するフェアな審査をしよう」と話し合ったほどです。

——素晴らしい演奏を聴くと、思わず拍手したくなりますが、日本人は周囲に合わせる感じも。

大里さん 日本人は、かしまって聴くスタイルから、まだ抜け出していない感じがしますね。

——出演者はいかがでしたか。

大里さん パワフルに堂々と歌っていました。イスラエル民謡は祈りなの。聴いて涙が出て。無伴奏で歌うロシアの子守歌もじーんとしちやって。中国人は草原牧歌を朗々と歌う。それぞれの国の心



# 世界めざす音楽家は 心にぶつける演奏を

第10回チャイコフスキー国際コンクール声乐部門の審査員を務めた大里さん。  
(左から6番目。1994年6月)



が素直に表現されていました。  
——日本との音楽的な違いは感  
じられましたか。  
大里さん 日本人の音楽は欠点  
がなく正確です。でも、個性やパ  
ワーが無くおとなしい。卒業演奏  
なら百点満点です。けれど、世界  
のコンクールでは自分の主張、聴

衆の心にぶつける強さがないと評  
価されません。日本人は、人より  
目立つことに遠慮しがちですが、  
演奏ではもっとと自由奔放に、のび  
のびと演奏してほしいですね。  
——同感です。先生と生徒の関  
係はいかがですか。  
大里さん 日本の師弟関係は、

最敬礼をして「教えていただく」という面がありますね。世界で活躍する音楽家は、それでは育たない気がします。親友のエレーナ・オブラストワ(世界的プリマドンナ)と、いつも話し合っているんです。「若い学生は将来、どんな優秀な宝を秘めているか分からない。私たちは、教えるのではなく、芽を引っ張るのでもない。学生が自分で双葉から花を咲かせられるような、その栄養になりたい」と。自分自身の力で美しい花を咲かせられるような環境を作ってあげることが教師の仕事ではないのかしら(同意を求めするように)。  
——そうしないと、芸術家に大切な創造力が失われますものね。  
大里さん 私の米国での最初の先生、マダム・ミラーを訪ねた時「ヨーコ、小鳥のように震えていないで入ってらっしゃい。私の姿を見ると、みんながいい声が出るようになる優しい先生でありたいの」と、にこやかにおっしゃった。私もそんな先生でありたい。

——日本にとって西洋音楽は輸入文化なので、無理をしている部分が残っているのでしょうか。  
大里さん 日本ではカデンツァ(即興演奏)を演奏するとき構えます。私は「心も体も柔らかくして、声を出さない」といいます。毎回、同じ曲を歌うにしても、その時々感じるフレッシュな心を表現できるかが問題です。  
——先生は川崎音楽文化連盟設立者のお一人ですが、そのきっかけは何だったのですか。  
大里さん 九一年に麻生区で開かれた「芸術の街づくり構想シンポジウム」で、高橋清・川崎市長の芸術についての理解や、団伊玖磨さんの「川崎にオペラハウスを」という発言に感動したんです。川崎の音楽家がまとまって、ソフトの面でお手伝いできたらと。  
——「地域に根ざす文化」と、よくいわれますが、具体的にどのような意味とお考えですか。  
大里さん 外国では、まちのオペラストラ・合唱団があつて、そのまちの色を持っているんですね。  
——まちの色ですね。  
大里さん 日本は、どのまちも都市も皆同じように見えます。けれど、川崎は力強いバイタリティーを持ったまちで、南北に長い市域に様々なタイプの音楽を愛する人たちがいます。それぞれ立場を



地域に根ざす文化とは

# 市民パワー十まちの色

## 全国から作曲、脚本募る オペラ

尊重しながら、ゆるやかに連携をすることが大切です。

川崎の色をつくるための連携ですね。

大里さん ええ。それに川崎は、伝統文化・芸術が大事にされています。



ます。「かわさき市民祭り」や各地のお祭りの時の市民パワーはすごいんです。いいものを見て聴き、自分も演じる。それを横につなげて「これが川崎の文化だ」というオリジナルな香りを作りたいんです。

九二年の連盟創立記念のエレーナ・オブラストワさんのコンサートは大好評でした。

になったのがきっかけとか。

大里さん 「新加瀬山伝説」を

佐藤征一郎先生(バス)築地文夫先生(バリトン)と見て、市民パワーに感激、私は「オペラ歌手だと気取っている場合じゃない」と思ったの。その後、声楽の仲間が集まり「川崎市民オペラ」をつくりました。プロとアマが一緒の市民オペラを上演するのが私の夢。

—— 具体的なプランは。

大里さん (目を輝かせて) 第一作は、世界に発信できるような川崎の民話のオリジナルオペラを、走り出したところです。作曲や脚本を全国から公募したいと思っています。

—— これが川崎の色ですね。

大里さん 川崎の伝説と音楽を結び付け、市民文化を育てたいわ。

—— 川崎の文化行政についての感想をお聞かせ下さい。

大里さん 川崎には文化センタ



丸山博子さん

### 丸山 博子 さん

まるやま・ひろこ=1951年、福岡県生まれ。東京の音楽学校を卒業後、ピアノリスト。83年、川崎市麻生区白山に転居。チエンパロを学びながら地域でピアノ指導やPTA活動。現在、川崎音楽文化連盟の事務局を担当。夫、二男、一女の5人家族。

ーが七つありハード面はいいと思います。市民アカデミーが生れ、

「芸術のまち」構想も動き出しています。中国の学生は、床が落ちそうなひどい場所で練習しているそうですが、あの国際コンクールでは素晴らしい演奏をしました。

—— 文化活動が、行政に頼っている面が多少あるのでは……。

大里さん 「ハード面が不十分だから文化活動ができない」は、無いものねだりです。市民のいろいろな文化活動をさらに強め、その積み重ねが大きな市民パワーとなり、行政が新たな文化施策を展開する力になると思うんです。そのパイプ役の一端を川崎音楽文化連盟が果たせればと考えています。

題字は高橋清・川崎市長

構成／野々川千恵子

文責／田中

関



市生涯学習振興事業団  
創立5周年記念式典

# 青少年、高齢者の学習担う

高橋市長

## 先進的役割果たす川崎市

### 三樹・日向市長らがお祝いの言葉

懇談する三樹博・日向市長、高橋清・川崎市市長、小島一也・川崎市議会議長（左から）



小川一朗・市文化協会会長



日野原守・市体育協会副会長



小泉昭男・市会第一常任委員会委員長



高橋和子・市社会教育委員会議長

（財）川崎市生涯学習振興事業団の創立五周年記念式典・祝賀会が昨年十一月十七日、新百合21ホールであり、生涯学習関係者百二十人が出席した。

高橋清・事業団理事長（川崎市市長）が「当事業団は平成二年に職員十四人で発足した。そして、市民の『人生八十年時代』を有意義に過ごしていただくため同五年に『かわさき市民アカデミー』をスタートさせた。現在、当事業団は、青少年から高齢者までの学習・文化・スポーツ事業を展開し、職員も百三十八人になった」と主催者を代表してあいさつした。

来賓の祝辞に移り、小島一也・川崎市議会議長は「本市では、生涯学習と言わず生涯学習という。この言葉に、市民が受け身ではなく、積極的に『余暇時代』を過ごす意味が込められている。また、生涯学習を通し素晴らしい地域社会が形成されると考える。事業団の役割はますます重要」と話した。

日野原守・市体育協会副会長は「体育協会は市民スポーツの推進役。生きがいとゆとりある地域をつくるには、事業団と連携を深めることが大切」と述べた。

高橋和子・市社会教育委員会議長は「生涯学習の主役は市民。その車の両輪は、社会教育行政と事業団。市民アカデミー第一回卒業生の記念論文を読み、みずみずしい文に感動した」と述べた。

青少年の地域間交流で協力を得ている友好都市の三樹博・日向市長（宮崎県）は「精神的ゆとりを大切にすること二一世紀を築くには、生涯にわたつての学習の場の確保が必要。川崎市はいち早く御事業団を設立され、飛躍的に生涯学習を発展させた」と力説した。

祝賀会で、小川一朗・川崎市文化協会会長は「市民は延べ四百九の開放校で楽しく学ぶなど幅広いダイナミックな活動をしている。事業団が生涯学習センターの役割を担っている」と語った。

「心豊かな生涯学習時代をさらに推進することを誓って」、小泉昭男・川崎市議会第一常任委員長の発声で参加者全員が乾杯。この後、終始なごやかに懇談した。



もっとも 幸せな とき  
「私のゴールデン エイジ はいま  
です」と、言える人は輝いている

写真と記事とは直接関係ありません。



「私のゴールデンエイジはいまです」と言える人は輝いている

かわさき市民アカデミー

’96年4月入会の  
会員・聴講生  
募集開始迫る

「『学ぶ』と『楽しむ』が同時にできる“大学”があるなんて」と、あなたは言うはずです。

いま、「かわさき市民アカデミー」で学んでいる会員の声を聞いたなら……。じっくりと10～16ページをお読み下さい。2月16日(金)から「かわさき市民アカデミー」の1996年4月入会の会員(学生)を募集します。

こんどは、あなたが「私のゴールデン エイジはいまです」という番です。

なんなりとお聞き下さい。☎ (422) 3 9 3 2の「かわさき市民アカデミー事務局」(川崎市中原区新丸子東3の473の2、川崎市中小企業・婦人会館内)へ。



# 「かわさき市民アカデミー」って、な〜に!

**募集開始** 会員は2月16日、聴講生は3月11日



■すべての市民が「川崎がもっと、生きいきとしたまちであってほしい」と思っています。それには、豊かな感性をもつ市民がたくさん住み、市民社会の質を高めることが大切です。

■川崎市民の新しい生涯学習の場として、2年前に設立した「かわさき市民アカデミー」は、市民が「学びあい、高めあう」ことによって、いきいきと生活すると同時に、まち全体が潤いと安らぎに満ちた「人に優しいまち」になることを願って誕生しました。

■「かわさき市民アカデミー」の特徴は?……

①継続して学べる 入会して2年間通して学ぶ専攻コースを一つ選びます②掘りさげて学び研究できる 専攻コースは、専門家の助言のもと会員(学生)が自主的に進める少人数の授業、「演習」があります③出会うよろこびがある 専

攻の講座と演習の他に、好きな講座を選択して受講でき、楽しい学園生活があります。

■講師の方々の顔ぶれは?……

各分野で活躍中の第一線級の先生方を招いています。11、12ページをご覧になれば、その多彩な顔ぶれに魅せられるはずですよ。

■入会資格は?……

18歳以上ならだれでも入会できます(試験はありません)。



■修学期間は?……

修学期間は2年間。半年ずつの学期が4学期、1学期は15週間。第I学期は、4月8日(月)~7月22日(月)です。

■どんなコース、講座が始まるの?……

4月から新しく始まるのは9コースで、詳しくは13~15ページの表をご覧ください。



**募集案内**  
(96年4月入会)

**会員へ応募される方**

■講座・演習 3系・9コース(講座内容、講師などは13~15頁参照)

■募集定員 各コース二十人

■費用 ①入会金 二万円(市内在住・在勤者以外は三万円)、会費期間は五年間②受講料は、専攻コースの講座と演習で一学期一万円。選択は一講座五千円③入会金と第I学期の受講料は、入会時に一括納入④教材・資料代などは別途自己負担

■申し込み方法 「入会案内」パンフレットに添付のはがきに必要事項を記し、切手をはって申し込む

■応募期間 二月十六日(金)~三月四日(月)で、当日消印有効

■入会案内パンフレット 二月上旬から各区役所・市民館・図書館・スポーツセンター、教育文化会館、中小企業・婦人会館、生涯学習振興事業団、体育館などで配布

■結果のお知らせ 応募者が定員を超えた場合は抽選。入会の可否は、三月十日(日)ごろまでに事務局から応募者宅に郵送



# 多彩な講師の横顔

おもな  
顔ぶれ

## これも「かわさき市民アカデミー」の自慢です

身体が多様な文化現象のもととは？

【人間学】

養老 孟司 さん

ようろう・たけし＝  
東京大学医学部を卒業  
後、解剖学を研究。

「唯脳論」解剖学教室  
へようこそ」など多数  
の著書がある。従来「解  
剖」は暗い存在。それ  
を身近なイメージにし  
た功績は大きい。



▼身体は“人間”を考  
える基礎になります。  
しかし、現代社会では  
どうもそうは思われ  
ていないようです。さ  
まざまな文化現象を、  
身体をものさしにし  
て、具体的に学習し  
ていきたいと思いま  
す。

文化的感覚で内閣の番頭役1年

【政治・国際関係】

五十嵐 広三 さん

いがらし・こうぞう  
＝前内閣官房長官。37  
歳の若さで旭川市長に  
当選、革新市長会の中  
核的存在になる。同時  
に民芸品商人の感覚を  
生かしアンデパンダン  
運動に加わり、目抜き  
通りを「買物公園」に



するなど文化的感覚で、  
ユニークな行政を実  
践。80年以降、衆議  
院議員で地方分権の  
論客。村山内閣成立  
後、その“番頭役”  
を無難にこなす。

▼内閣官房長官1年  
の経験の中から、連  
立政権の誕生、阪神  
大震災発生時にお  
ける村山内閣の取  
り組みなど、内か  
らみた政治を語り  
ます。

### 聴講生へ応募される方

■ 選択講座について 専攻コース以外の講座と、川崎学講座の選択希望については、入会后に提出（聴講生としての申し込みは不要）  
■ 問い合わせ ☎ 044（422）3932  
または ☎ 044（422）7875、かわさき市民アカデミー事務局

（コースに所属しないで、講座だけを受講したい方が対象）

■ 聴講できる講座 21講座（16ページ参照）

■ 募集定員 各講座とも先着十〜三十人

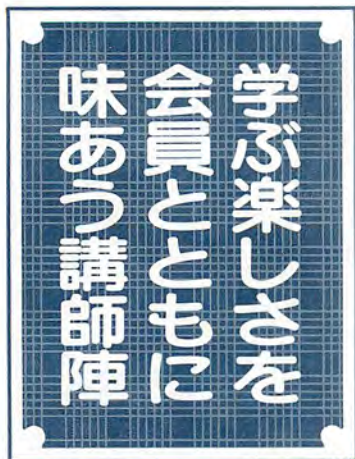
（会員へ応募された方は申し込み不要。会員には別枠あり）

■ 受講料 一講座七千五百円（ただし講座No.8「川崎の自然観察〜春・夏編」は、一万五千円）

■ 申し込み方法 三月十一日（月）九時から電話で受け付け（先着順で定員になりしだい締め切り）

■ 申し込み先 かわさき市民アカデミー事務局（日曜休み）☎ 044（422）3932  
か、☎（422）7875へ電話で受け付け





統計学はどこまで説得力をもつか？

【経済と環境】 竹内 啓 さん

たけうち・けい＝明治学院大学教授。専門は、数理統計学および計量経済学。統計学の理論研究の第一人者だが、科学技術と社会との関係に現れるさまざまな事柄をだれもが納得する思考で明解にさばく論客。

▼アジア諸国のめざましい経済発展という流れの中で、世界と日本の経済社会は大きな転機に直面しています。それが私たち庶民に何をもたらすのかを一緒に考えましょう。



日独の異文化理解から見えるもの

【文学担当】

村田 経和 さん

むらた・つねかず＝学習院大学教授でドイツ語、ドイツ文学を担当する一方、ドイツの成人学校、大学、高校で日本語と日本学を教え、両国の異文化について正確な知識をもたらし国際社会に貢献。



▼小説の語りのトリックに騙されて、日常を忘れてしまうのはなぜでしょうか。これを考えるのが、ここ10年の私の専門になっています。

抽象画は分からない作品なのか？

【芸術（美術）】

西田 秀穂 さん

にしだ・ひでほ＝東北大学名誉教授。抽象絵画に先鞭をつけたロシア生まれのカンディンスキーやスイスの叙情的抽象画家で抽象芸術に影響を与えたパウル・クレー、ドイツ表現主義研究の第一人者。



▼「抽象画が分からない」との声をよく聞きます。抽象画の誕生、発展過程、作品の意味などをスライドを多く使って説明していきます。

広告が文化ってホントなの？

【ことばと映像】

天野 祐吉 さん

あまの・ゆうきち＝79年、「広告批評」を創刊、編集長を経て現在、発行人。広告を大衆文化ととらえた功績は大きい。辛口のコラムニストとして執筆するかたわら、テレビのコメンテーターとして幅広い支持を得ている。



▼その時々ニュースや、CMから題材を選んで批評し、テレビの見方をともに考えます。

いま、生活学から「豊かさ」を問う

【生活系3コース】

一番ヶ瀬 康子さん

いちばんがせ・やすこ＝東洋大学教授。生活者の立場から老人福祉、保育、女性に関する社会福祉学を提唱。「現場」に足を運び、事実に基づいた提言は「弱者に優しい視点」と定評。



▼心の貧乏、時間の貧乏にならないよう「心の豊かさ」という視点で自分を見つめ、おい・みどり・住まいを一緒に考えていきましょう。



## 研究系

- 会場：中小企業・婦人会館（武蔵小杉駅下車）
- 時間：講座・人間学11時～12時20分、政治・国際関係9時30分～10時50分、  
経済と環境10時30分～11時50分／演習はいずれも13時～15時

コース名	人間学	政治・国際関係	経済と環境
曜日	月	月	金
講座のテーマと講師	第Ⅰ学期 (4月～7月)	官房長官の一年 ～内から政治をみる 五十嵐広三・前官房長官  ヨーロッパの政治変革 馬場康雄・東京大学教授	冷戦後の経済と 環境問題 竹内啓・東京大学 名誉教授ほか
	第Ⅱ学期 (10月～ 97年2月)	現代ドイツの波瀾 ～第三帝国の興亡と 東西ドイツの冷戦 仲井斌・成蹊大学教授	これからのまちづくり ～緑・情報・エコロジー 進士五十八・ 東京農業大学教授ほか
	第Ⅲ学期 (97年4月 ～7月)	変動するアジアと 日本の役割 萩原宣之・獨協大学教授	地域文化と経済 ～アジアの多様性 後藤晃・ 神奈川大学教授ほか
	第Ⅳ学期 (97年10月 ～98年2月)	日韓関係史 森山茂徳・獨協大学教授	経済と女性 久場嬉子・ 東京学芸大学教授ほか
演習のテーマ (第Ⅰ学期 ～第Ⅳ学期)	人として生きることを求めて、既成の価値を問い直すことから始める。  〈コーディネーター〉 牧柁名・ 駿河台大学教授 鈴木七美・ 青山学院短期大学講師	敗戦国の日本・ドイツの戦後史を比較する。1年ごとに会員の要望に基づきテーマを決める。  〈コーディネーター〉 平島健司・ 東京大学助教 篠原一・ 東京大学名誉教授 野地孝一・信州大学教授	地球環境問題を考える。もっとも身近なごみ問題から地球温暖化までを市民社会の視点で。  〈コーディネーター〉 間宮陽介・京都大学教授 横須賀自治研センター 菅原昭さん
※演習のコーディネーターとは、会員への助言者			

◆テーマ名が変わることがあります。時間は通常で見学などのときは変更します。



## 表現系

- 会場：文学、芸術コース——新百合21ビル（新百合ヶ丘駅下車）  
ことばと映像コース——中小企業・婦人会館（武蔵小杉駅下車）
- 時間：講座——10時30分～11時50分／演習——13時～15時

コース名		文 学	芸 術(美術)	ことばと映像
曜 日		木	水	火
講 座 の テ ー マ と 講 師	第Ⅰ学期 (4月～7月)	グリムからエンデへ ～ドイツの子供の本 村田経和・ 学習院大学教授ほか	自然から抽象へ ～抽象絵画の成立と意味 西田秀穂・ 東北大学名誉教授	テレビをどう観るか 広告批評発行人、コラム ニスト・天野祐吉さん 江藤文夫・成蹊大学教授
	第Ⅱ学期 (10月～ 97年2月)	小説の発生とその流れ 村田経和・ 学習院大学教授ほか	明治・大正・昭和に おける日本近代絵画の 展開と芸術運動 佐藤道信・ 東京芸術大学助教授	新聞をどう読むか 原寿雄・ 元共同通信編集主幹
	第Ⅲ学期 (97年4月 ～7月)	小説の構造について 村田経和・ 学習院大学教授ほか	水墨画における色彩と 構成～山水画の世界 小川裕充・東京大学教授	生活からマスコミを見る 吉見俊哉・ 東京大学助教授
	第Ⅳ学期 (97年10月 ～98年2月)	歴史と文学 作家・辻邦生さんほか	ジャポニズム ～近代西洋美術と日本 三浦篤・東京大学助教授	新聞情報・テレビ情報の 読み方 江藤文夫・成蹊大学教授
演習のテーマ (第Ⅰ学期 ～第Ⅳ学期)	作品を読むことを軸に進 める。第Ⅰ学期は、近代 小説の古典、漱石・チェ ーホフ・ディキンズの作 品を取り上げる。	絵画を観照して美意識を 直観的に認識、「作品を 観る眼」を育てる。	新聞やテレビをどう読み、 現代をどうとらえるか。 オウム報道などの事例研 究を通して情報の選択眼 を高める。	
※演習のコーディネ ーターとは、会員 への助言者	〈コーディネーター〉 和田あき子・ 東京外国語大学講師 山本芳明・ 学習院大学助教授 村田経和・ 学習院大学教授	〈コーディネーター〉 西田秀穂・ 東北大学名誉教授	〈コーディネーター〉 内川芳美・ 東京大学名誉教授 江藤文夫・成蹊大学教授	

◆テーマ名が変わることがあります。時間は通常で見学などのときは変更します。



## 生活系

- 会場：日本女子大学西生田生涯学習センター（読売ランド前駅下車徒歩10分）
- 時間：講座——9時30分～10時50分（みどり学のⅢ、Ⅳ学期は10時30分～11時50分）  
演習——11時～12時50分（みどり学のⅢ、Ⅳ学期は13時～15時）

コース名		高齢者福祉	居住福祉	みどり学
曜日		金	金	金
講座のテーマと講師	第Ⅰ学期 (4月～7月)	生活とはなにか（生活系共通講座）  一番ヶ瀬康子・東洋大学教授 中畠邦・日本女子大学教授 小川信子・日本女子大学教授ほか		
	第Ⅱ学期 (10月～ 97年2月)	生活福祉の方法と展開（生活系共通講座）  一番ヶ瀬康子・東洋大学教授 山本和代・東洋英和女学院大学教授ほか		
	第Ⅲ学期 (97年4月 ～7月)	高齢者の福祉と介護① ～保健・医療を中心に  一番ヶ瀬康子・ 東洋大学教授ほか	居住環境と福祉を考える  小川信子・ 日本女子大学教授	くらしの中の“みどり” のデザイン ～園芸を中心に  川崎市園芸相談員ほか
	第Ⅳ学期 (97年10月 ～98年2月)	高齢者の福祉と介護② ～行政や市民活動の あり方を中心に 一番ヶ瀬康子・ 東洋大学教授ほか	各国の居住福祉を考える  小川信子・ 日本女子大学教授	庭園学・造園学の基礎、 都市の中の“みどり”の 回復 北沢清・ 東京農業大学教授ほか
演習のテーマ (第Ⅰ学期 ～第Ⅳ学期)	高齢者福祉の望ましい制度や市民活動を考える。各種施設の訪問や介護実習(ホームヘルパー3級)にも取り上げる。	介護に必要な人や高齢者にやさしい住まいのあり方を学び、居住空間をプランニングする力を身につける。	園芸から造園学まで、暮らしのなかに“みどり”を創造する方法や技術を学ぶ。	
※演習のコーディネーターとは、会員への助言者	〈コーディネーター〉 高齢者福祉研究者・ 加藤美枝さん	〈コーディネーター〉 住居学研究者・ 小島久実さん	〈コーディネーター〉 川崎市園芸相談員 北沢清・ 東京農業大学教授	

◆テーマ名が変わることがあります。時間は通常で見学のときは変更します。



## 聴講生・会員選択講座

(96年度前期=4~7月) ●各講座とも全14回。  
No.3、4上段の1~3回目は共通講座、下段が11回。

No.	講座名	講師	曜日・時間	会場
1	ひとと時間	哲学者・内山節さん	月・9:30	中小企業・ 婦人会館 (中婦会館)
2	からだ 身体の文化論 いのち 生命の文化人類学	解剖学者 養老孟司さん 鈴木七美・青山学院短期大講師	月・11:00	
3	官房長官の一年~内から政治をみる ヨーロッパの政治変革	五十嵐広三・前官房長官 馬場康雄・東京大教授	月・9:30	
4	官房長官の一年~内から政治をみる 平和学	五十嵐広三・前官房長官 高橋進・東京大教授	月・9:30 月・11:00	
5	昭和史の争点Ⅱ~戦後の展開	原田勝正・和光大教授ほか	月・10:30	新百合21ビル
6	臨海地域総合研究	佐藤紘毅・川崎地方自治研究 センター専任研究員	月・18:30	自治研究 センター
7	テレビをどう観るか	「広告批評」発行人 天野祐吉さんほか	火・10:30	中婦会館
8	川崎の自然観察~春・夏編	斎藤博・国立公園指導員	火・10:00	屋外中心
9	自然から抽象へ ~抽象絵画の成立と意味	西田秀穂・東北大名誉教授	水・10:30	新百合21ビル
10	グリムからエンデへ ~ドイツの子供の本	村田経和・学習院大教授ほか	木・10:30	
11	地球の科学	清野聡子・東京大学助手ほか	木・10:30	中婦会館
12	ヨーロッパの音楽はなぜ?	音楽評論家・丹羽正明さん	木・10:30	大山街道 ふるさと館
13	日本経済の問題点	橋本寿朗・東京大教授ほか	木・10:30	中婦会館
14	ドキュメンタリーの方法 ~映像の読み方と創り方	江藤文夫・成蹊大教授	木・10:30	市民 ミュージアム
15	生活とはなにか	一番ヶ瀬康子・東洋大教授ほか	金・9:30	日本女子大学 西生田生涯 学習センター
16	高齢者の福祉と介護	一番ヶ瀬康子・東洋大教授ほか	金・13:20	
17	居住環境と福祉を考える	小川信子・日本女子大教授	金・13:20	
18	造園学入門講座	造園設計家・野沢清さんほか	金・10:30	新百合21ビル
19	冷戦後の経済と環境問題	竹内啓・東京大名誉教授ほか	金・10:30	中婦会館
20	川崎の民俗と歴史 ~古代から現代まで	村上直・法政大教授ほか	土・10:00	
21	川崎の市政を考える	出版編集者・今井克樹さんほか	土・13:00	

◆講座名は変更することがあります。時間は開始時間で通常80分。No.8は15時まで。



学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

〔食生活講座〕「ガンと食生活」◆麻生老人福祉センター 2月7、14、21日の水曜9時半から。対象は60歳以上で7日は男、14日と21日はどちらかを選ぶ。材料費500円。管理栄養士の指導で調理実習。定員は18〜20人。エプロン、筆記具、ふきん持参。申し込みは1月4日(木)から希望日の1週間前までに☎(966)1549の同センター。

〔ビジネス英語研修◆市産業振興会館〕2月13日〜3月22日の火、金曜18時半から全12回。ネイティブ・スピーカーで実践会話訓練、当該国の文化や価値観、ビジネスの慣習、発想を学ぶ。対象は英語について若干知識のある方。受講料5万円。定員約8人。簡単な面接あり。申し込みは1月19日(金)までに申込書(各区役所、市民館、図書館にあ

り)を下210番区堀川町66の20、市産業振興財団情報開発課へ郵送かFAX(548)4151。☎(548)4119。

〔煎茶道講座◆川崎市民プラザ〕1月18日(木)10時半からと13時半から。費用500円。定員は各30人(抽選)。申し込みは1月10日(水)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望時間を記し下213高津区新作1の19の1、同プラザ「同講座」係☎(888)3131。

〔スカーフで作るおしゃれなコサージュとアクセサリー◆登戸ドレスメーカー学院〕1月27日、2月3日の土曜13時半から、使わなくなったスカーフでコサージュ、髪かざりを作る。受講料1回千円。スカーフか薄地ブラウスを持参。申し込みは午前中に☎(911)2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。

〔家庭料理で心もホッカ

り)を下210番区堀川町66の20、市産業振興財団情報開発課へ郵送かFAX(548)4151。☎(548)4119。

〔煎茶道講座◆川崎市民プラザ〕1月18日(木)10時半からと13時半から。費用500円。定員は各30人(抽選)。申し込みは1月10日(水)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望時間を記し下213高津区新作1の19の1、同プラザ「同講座」係☎(888)3131。

〔スカーフで作るおしゃれなコサージュとアクセサリー◆登戸ドレスメーカー学院〕1月27日、2月3日の土曜13時半から、使わなくなったスカーフでコサージュ、髪かざりを作る。受講料1回千円。スカーフか薄地ブラウスを持参。申し込みは午前中に☎(911)2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。

〔家庭料理で心もホッカ

り)を下210番区堀川町66の20、市産業振興財団情報開発課へ郵送かFAX(548)4151。☎(548)4119。

〔煎茶道講座◆川崎市民プラザ〕1月18日(木)10時半からと13時半から。費用500円。定員は各30人(抽選)。申し込みは1月10日(水)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望時間を記し下213高津区新作1の19の1、同プラザ「同講座」係☎(888)3131。

〔スカーフで作るおしゃれなコサージュとアクセサリー◆登戸ドレスメーカー学院〕1月27日、2月3日の土曜13時半から、使わなくなったスカーフでコサージュ、髪かざりを作る。受講料1回千円。スカーフか薄地ブラウスを持参。申し込みは午前中に☎(911)2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。

〔家庭料理で心もホッカ

市外局番のないものは044

学習・文化情報

ホッカノ〜簡単・健康スピードクッキング◆県川崎北労働センター 1月12日(金) 中華料理▽17日(水) 西洋料理▽19日(金) 日本料理。いずれも18時15分から。講師は横浜調理師専門学校細川桂子さん。受講料、材料費は自己負担。定員20人。エプロン持参。申し込みは☎(722)0171の同センター。

〔わら細工「鍋敷き」作り◆日本民家園〕2月4、18日の日曜10時から。受講料は1回500円。定員は各先着20人。申し込みは1月10日(水)9時から☎(922)2181の同園。

〔昭和音楽大学生涯学習講座〕芸術文化百年史・19世紀編◆昭和音楽芸術学院 1月13日〜2月10日の毎週土曜13時から。絵画や民族主義音楽のオリエンタリズムとジャポニズムなど。講師は太田泰人・神奈川県立近代美術館主任学芸員、笠原潔・放送大助教授、正木

光江・昭和音大教授ほか。受講料は1回3千円。申し込みは☎(953)1230の同学院内昭和音大生涯学習センター。新百合ヶ丘駅下車。

〔講演会〕うおつか流生活の極意◆多摩市民館 2月4日(日)14時から。1カ月7千500円の食費で栄養豊かな食事が出来ることを実証した食生活研究家の魚柄仁之助さんが、暮らしのアイデアと発想の極意を紹介。定員先着45人。申し込みは1月5日(金)〜30日(火)に。☎(935)3400の多摩図書館。

〔朗読ボランティア入門講習会◆多摩川の里身体障害者福祉会館〕1月31日〜2月28日の毎週水曜13時半から、全5回。参加無料。定員先着25人。「朗読ボランティアグループさんざし」他が協力。筆記具持参。申し込みは1月9日(火)〜27日(土)に☎(935)1359の同館。

〔地域消費者問題専門講座〕一歩すすんだ住まい考察◆県川崎消費生活センター 1月18日(木)23日(火)26日(金)30日(火)。時間は30日は13時から、他は13時半から。全4回。「安全な住まいとは」欠陥住宅の現状「長生きは家づくりから」プラス思考でいきいきライフ。講師は伊藤学・学建築研究所長、東京都老人総合研究所環境部門の林玉子さん。住宅総合展示場の見学会や「住まいの契約トラブル」と題した交流会も。受講料無料。定員先着80人。2歳以上の託児あり。申し込みは1月12日(金)までに☎(833)1231内線332の同センター。

〔①やさしい先端技術講座②ワイプロ教室◆東芝科

学館〕①は1月19日(金)10時と13時半から。最も注目されている技術開発「マ

20ページへつづく

20ページへつづく

20ページへつづく

20ページへつづく

20ページへつづく

20ページへつづく



はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ 学ぶ 活動する 住む住む。



幾何学もように  
光と風編み込み

日本の心を映す竹を菓子器や花  
かごに編みあげ、自然を暮らしに  
取り入れているのは「竹工芸研究  
会」―清水美恵子代表(63)ら十  
五人。会員は毎月一回、多摩市民  
館で、光と影の造形美に浸る。  
同会が取り組んでいるのは、ザ  
ルヤカゴなどの生活用品をこえて、

暮らしの中の造形美楽しむ

竹工芸研究会 (多摩区)

美しく観賞に値する作品。繊細で芸術的でありながら、親から子、孫へと使い続ける耐久性もある。タオルやハサミをかたわらに工ブロン姿の会員は、真剣な面持ちでそれぞれの作品に向かい、細く薄く裂いた竹の皮を、複雑な幾何学模様で編んでいく。幅の異なる竹の組み合わせで亀甲を浮かび上げらせる菓子器では、難しさに首をひねりながらも、一つ一つなぞを解くように編み進んでいく。

幅一・二ジの竹二百本を交互に重ねて編む花かごは、竹を折らないよう細心の注意を払う。ぴーんと張りつめた直線と、しなやかな曲線。竹林の光と風が編み込まれ、〇・四ジの薄い竹が重なると、透かし模様の奥行きが生まれる。一本の細い竹の皮から、神秘的でフアンタスティックな世界が表現される。編むごとに会員の口から心一つとため息が漏れる。

同会は、昭和53年12月、多摩市民館美術講座の終了者が集まって発足。その後、中原市民館の成人学校終了者も加わった。発足当時同会指導者だった竹芸家馬場松堂さん(日展会友)から「竹への愛情や芸術への追及心」を厳しく教

えられたという。会員は、やがて材料も買うだけでは飽き足らず、大分県別府市から長い竹をそのまま取り寄せ、自分たちで好みの幅に裂く竹好きの「かぐや姫(馬場さん)」になった。その後、馬場さんが多忙なため、お互いに教え合いながら運営。その間、大海原信子さん(44)は川崎市美術展で入選2回、奨励賞一回を受賞、今では会員に指導するまでになった。

ただ一人の男性、高島良吉さん(78)は「竹は使うほどに、あめ色になり味わい深くなります。親類の踊りの会の引き出物として、菓子皿を百個作って喜ばれました」と元氣よく笑う。

お茶会の道具を自分で作っている渥野井臣子さん(60)は「晴れがましさが増します」と満足そう。代表の清水さんは「命ある竹が、形を変えて新たな命になり、なんともいえない喜びです。皆さんと竹のように細く長く続けたい」と楽しそうに語る。

同代表宅は、多摩区西生田3の1の12。☎(966)8516。

文 / 小誌・熊野史子  
カメラ / 小誌・山本綾子



ワイド版

はりきってます グループ紹介

漢詩の心を吟诵

朗吟研究会 (高津区)

喜怒哀楽や花鳥風月を詠んだ漢詩。その心情を独特の節回りで演じる詩吟。「朗吟研究会」の浜田かね子代表(68)ら二十五人は「作者の気持ちを理解し、腹の底から声を出して吟じると歴史が分かり健康になります」と詩吟の世界を堪能している。

定例会は毎月二回、高津市民館などで開いている。高津区下作延の老人ホーム「恵楽園」には月一回、足を運び、お年寄りたちに詩吟を教え喜ばれている。川崎市民プラザでの発表会を心待ちにしている地域のお年寄りも少なくない。この日は江戸中期の詩人、服部南郭の作、「夜墨水を下る」を吟じた。全員による合吟で、各会員は背筋を伸ばし、手をひざの上に置き、新聞紙大の紙に書かれた漢詩を見詰める。日本吟道学院龍祥会の土屋龍翠教授が一節ずつ吟じ、つづけて会員が詠む。「夜墨水を下る」は、秋の夜、月明かりのもと、

小舟で隅田川を下る「侘び」寂の風情を詠んだ作品で、静寂な美声が響きわたる。

この後、一人ずつ好きな詩を吟

心響く艶やかな声  
ボランティア  
老人ホームで奉仕



する。唇を震わせて消えるように母音を延ばす女性。首を振りながら低音から高音へ小節をきかせる人。土屋教授が「いいですね。もつと下の音から高くもつていくと苦しくないですよ」と、手振りを交えながら微妙な音の高さや抑揚を助言する。詩の情景に会員の感情が溶け込み、艶やかな声ガ心に響いてくる。

会員のノートには、漢詩の一文一字、一文に赤ペンで余韻やこぼしを表す「記号」が書き込まれている。それは、土屋教授が市販テキストに、符付けを書き加えたオリジナルの教本。

長坂奈津さん(74)は「詩吟は一字一字に意味がこもっていて奥深い。歴史や古典も学ぶことができ、とても楽しい」と笑顔。

昨秋、長男が結婚した際「披露宴の新郎新婦入場の時、お田さん吟じて」と言われ、祝吟の「四海波」を披露した新田幸子さん(61)は「幸せの願いを込めて吟じました」と感激の面持ち。

入会半年の伏見武子さん(66)は「まだ余韻をひっぱれませんが、周りの会員に励まされながら吟じています」と楽しそう。

浜田代表は「恵楽園へ詩吟を教えに行っていますが、趣味を生かしたボランティアが出来て、とてもうれしい。今後もみんなと一緒に慰問に出掛けて行きたいと思います」と、にこやかに話す。

同代表宅は、高津区溝口五九八。  
☎(822)8241。

文／小誌・山本綾子  
カメラ／小誌・熊野史子

仲間と楽しむ

学ぶ

活動する

生き生きと



学習・文化情報

参加したい催しがある

17ページからのつづき

ルチメディア」について実演を交えて解説。無料。定員各250人②は2月14日(水)15日(木)9時半から、入門コース▽13時半から、基本コース。初心者向き。教材費千円。1人1台のワープロで指導。申し込みは☎(549)22000の同館。川崎駅からバス。「講習会①さくらそうの鉢作り②盆栽の手入れ③植物のふやし方◆市緑化センター」①は2月9日(金)②3月8日(金)③3月13日(水)。教材費は①500円②無料③300円。いずれも13時半から。定員30人(抽選)。申し込みは①1月27日(土)②2月24日(土)③2月29日(木)までに往復はがき(1人1枚)に講習会名、住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区宿河原6の14の1、同センター☎(911)2177。「もてなしの花講習会◆川崎市民プラザ」2月5日(月)10時から、6日(火)13時半から。草月流で食卓

を飾る花の生け方。費用2千円。定員各20人(抽選)。申し込みは1月22日(月)必着で往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、希望日を記し〒213高津区新作1の19の1、同プラザ「同講習会」☎(888)3131。「市民健康セミナー」患者、家族のための「リウマチの治療」◆市中小企業・婦人会館」2月24日(土)14時から。東威・聖マリアンナ医科大学東横病院長の講演、自由討論。看護婦、薬剤師の相談あり。無料。定員約200人。問い合わせは☎(722)2121内線522の同病院庶務課(主催)。「入門①スケッチ②鎌倉彫③社交ダンス◆県立高津青少年会館」①は1月12日〜3月1日の毎週金曜、全8回。身近な物から描く②は1月19日〜3月1日(23日を除く)の毎週金曜、全6回。彫刻刀の使い方から彫り上げるまで。教材費3千円。彫刻刀持参③は2月7日〜3月6日の毎週水曜、

全5回。基本ステップから手ほどき。時間は①②19時から③18時半から。いずれも対象は青年。定員は①15人②10人③20人。申し込みは☎(844)2101の同館。「①歌声の広場②VOICETレーニング水・金曜◆県立高津青少年会館」①は1月11日〜3月28日の毎週木曜、全12回。楽しく歌う②の水曜は1月17日〜3月27日、金曜は1月19日〜3月29日の毎週。発声法の基礎を学ぶ。いずれも時間は19時から。対象は青年。定員各15人。申し込みは☎(844)2101の同館。「会員募集①スポーツ教室②趣味の教室◆川崎市民プラザ」①の種目は水泳(幼児、児童、成人、女性)▽体操(幼児、児童)▽体力づくり(成人)②の募集科目はアートフラワー・フラワーデザイン▽茶道(表千家、裏千家)▽着物の着付け▽いけばな(草月流、池坊)▽書道▽盆栽▽コーラス▽ジャズダンス▽水彩画▽ビュートイヨーガ▽和

裁▽ペン習字▽太極拳▽日本画▽鎌倉彫▽エアロビクス▽油絵▽煎茶道▽レザークラフト▽パッチワークとキルト▽自彊術▽時代舞踊着付け。入会金は①5千円②3千円。会費は月額①4千〜5千500円②4千円。いずれも申し込みは2月18日(日)10時から。詳しくは☎(888)3131の同プラザ。「春の短期水泳教室◆川崎市民プラザ」3月25日(月)〜29日(金)8時から。対象は5歳〜中学生。受講料5千円。定員先着百人。申し込みは2月18日(日)10時から☎(888)3131の同プラザ。



「囲碁・将棋大会◆麻生老人福祉センター」1月31日(水)9時半から。対象は60歳以上の方。費用は昼食代など800円。定員は先着で囲碁52人、将棋20人。申し込みは1月8日(月)〜20日(土)に費用を添えて同センターへ直接。問い合わせは☎(966)1549の同センター。「わくわく実験教室◆東芝科学館」1月13日(土)、空気は力もち▽2月10日(土)、超電導ってなんだろをテーマに実験を中心に分かりやすく説明。いずれも時間は10時と13時から。対象は小学生以上。無料。定員は各250人。申し込みは☎(549)22000の同館。川崎駅からバス。「ミニ観察会◆生田緑地」1月28日、2月4日の日曜、野鳥入門。8時50分、同緑地東口駐車場に集合。雨天時はビデオ鑑賞▽2月3日(土)、植物観察。13時50分、市青少年科学館に集合。雨天決行。いずれも参加自由筆記具持参。問い合わせは☎(922)4731の同館。「①市民天体観望会②天体写真撮影会◆市青少年科学館」①は1月20日(土)17時半から▽2月10日(土)18時から、星雲、星団を観望。雨、曇りはプラネタリウムで星の話②は2月18日(日)12時から、太陽を撮



学習・文化情報

おもしろいイベントがある

影。対象は小学5年以上。定員先着14人。フィルム、一眼レフカメラ持参。雨、曇りは中止。いずれも無料。申し込みは①参加自由②1月28日(日)9時から☎(922)4731の同館。

◆市青少年科学館 1月28日(日)10時から。対象は小学生以上。定員先着15人。材料費百円。弁当、ルーペ、筆記具持参。調理する服装で参加。申し込みは1月16日(火)9時から。☎(922)4731の同館。

◆映画劇場②春のダンスパーティー◆川崎市民プラザ ①は2月3日(土)14時から18時。ライオン・キングを上映。無料。定員先着各5百人②2月17日(土)18時半から。入場料2千円。前売り、問い合わせは☎(888)3131の同プラザ。

◆よみうりランド海水水族館 2月25日(日)まで。内外の川や海に生息するツノカサゴ写真など1015種を展示。問い合わせは☎(966)1111の同館。読売ランド前駅からバス。

☎(966)1111の同館。読売ランド前駅からバス。



①子ども人形劇のつどい②子供のびのび広場◆県立川崎青少年会館 ①は1月20日(土)14時から、幼児、児童向け新作人形劇。対象は幼児、児童と保護者。定員は25組50人②は1月13日(土)14時から、ギター▽13、27日の土曜10時から卓球、遊び、囲碁・将棋。対象は小学1高年生。無料。定員は各10人。卓球はラケット、室内靴持参。申し込みは☎(222)5281の同館。

◆「第7回麻生区俳句大会 麻生文化センター」1月28日(日)13時から。すでに募集した句の入選作の発表と句の披露。当日、席題を正午に発表、投句の締め切りは13時で、参加者全員で20位までを互選し、賞を贈る。参加者全員に俳句大会選句集を贈呈。参加希望者は水曜日の10~15時に☎(951)1300の同センター内、麻生区文化協会。

「私たち住む地域の現状」▽2月3日(土)「自然と人間のかかりあい。いずれも13時半から。講師は斎藤博・かわさき市民アカデミー講師。無料。定員50人。地域を案内するボランティアグループ「たちばな緑の会」会員の企画、運営。申し込みは1月17日(水)10時から☎(788)1531のプラザ橋。

「環境にいい買い物とは?」◆県川崎消費生活センター 1月19日(金)13時半から。講師は、全国68チェーンストアの環境通信簿「地球にやさしい買い物ガイド」作成メンバー、緑川芳樹さん。無料。問い合わせは☎(955)2533の飯田さん。川崎・ゴミを考える市民連絡会など主催。会場は溝ノ口駅下車。県高津合同庁舎3階。

「ステッパアップ・フォトグラフィ」中級写真講座◆市市民ミュージアム 2月17日~3月23日の毎週土曜13時から全6回。白黒写真制作の技術向上について。講師は写真家・伊奈英次さん。受講料1万円。定員先着16人。申し込みは1月18日(木)9時半から☎(754)4500の同所。

「新春デイナーショー」河野保人ツイターのタペ◆会館とどろき 2月2日(金)18時から。イタリア料理とワンドリンク。入場料5千円。定員先着80人。申し込みは1月8日(月)126日(金)に☎(733)3333の同所。

「仕事と家庭の両立支援セミナー」もし親が倒れたら...あなたは働き続けられますか◆ニューハトヤ 2月6日(火)13時から。

「育児・介護休業法とこれからの働き方」と題し、松岡二郎・宇都宮大講師が講演▽両立支援制度について、21世紀職業財団神奈川事務所の職員が解説▽ビデオ上映▽質疑、意見交換。受講無料。定員50人。申し込みは☎(233)7351内線284の県川崎労働センター(主催)。会場は京急川崎駅下車。

「小林ちから・ピアノの世界」◆靴ホール 1月28日(日)14時開演。曲目は愛情物語▽英雄ポロネーズ▽ある愛の詩、オリジナル曲共演はベース・広瀬正之▽ドラムス・上村計一郎。入場料2千五百円。問い合わせは☎(812)6090の同ホール。溝ノ口駅下車。

「国指定芸能「組踊」特別鑑賞会◆市立労働会館」1月26日(金)18時半開演。出演は重要無形文化財保持者の団体・伝統組踊保存会。演目は沖繩伝統舞踊「老人老女」若衆こてい節▽組

「第7回麻生区俳句大会 麻生文化センター」1月28日(日)13時から。すでに募集した句の入選作の発表と句の披露。当日、席題を正午に発表、投句の締め切りは13時で、参加者全員で20位までを互選し、賞を贈る。参加者全員に俳句大会選句集を贈呈。参加希望者は水曜日の10~15時に☎(951)1300の同センター内、麻生区文化協会。

ステージ



学習・文化情報

ききたい音楽がある

踊「万歳敵討」＝写真＝ほか。定員7百人。組踊は、琉球王朝が外交使節を歓待するのに作られた音楽、舞踊、文学を合わせた古典劇。前売りは1月20日(土)までに☎(222) 8821の市文化財団。

「シャガールの傑作版画展記念プロムナードコンサート」愛する人々へのメッセージ◆市市民ミュージアム 2月11日(日)▽3月17日(日)▽20日(水)14時から。出演は太田恭子(ピアノ) 中瀬千央(同)



丸山朋文(チェロ)ら若手音楽家。曲目はラベル「ダフニスとクロエ」▽フォーレ「夢のあとに」▽ショパン「序奏と華麗なるポロネーズ」他。シャガール展の入場料が必要。問い合わせ☎(754) 4500の同所・中川さん。

「糞金曜寄席◆ギャラリ糞」1月19日(金)19時開演。出演は林家錦平。入場料は飲み物付き千5百円。問い合わせ☎(812) 6090の同所。溝ノ口駅下車、岩崎酒店2階。

「なつかしき日本の歌と世界の名曲コンサート◆川崎市民プラザ」2月24日



(土)14時から。出演は富重祐・ヴァイオリン＝写真▽山本健二・バリトン▽黒尾友美子・ピアノ。曲目はサンタ・ルチア▽荒城の月▽からたちの花▽金婚式▽アニーローリー他。無料。定員は当日先着5百人。問い合わせ☎(888) 3131の同プラザ。

「神奈川県アマチュアビックバンド連盟合同コンサート◆川崎市民プラザ」2月18日(日)12時から。スタンダードからラテンの名曲を演奏。無料。問い合わせ☎(888) 3131の同プラザ。

スポーツ

「武道練習と武道演武会◆石川記念武道館」次の曜日に武道の練習ができます。①なぎなた。火曜14▽16時半▽土曜15▽17時半②女性剣道。火曜10▽12時半③剣道。火曜10▽12時半④火・木曜⑤柔道。火・木曜⑥空手道。土曜⑦合気道。火・土曜⑦少林寺拳法。木・土曜③⑦は18▽20時半。毎回施設利用料要。▽2月18日(日)13▽16時半、武道演武会。見学自由。無料。防寒の用意で。☎(544) 0493川崎駅からバス。

「①母と子のスポーツ教室②スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」①1月18日▽3月14日の毎週木曜15時半▽16時半ボール、マットなど楽しく運動。小学1年の児童と親5組。申し込みは1月9日(火)まで②1月19日(金)18時半▽20時半。ウェイトトレーニングの基本と利用方法。16歳以上。①②とも参加費無料(ただしスポー

ギャラリ

「ギャラリ幸」1月12日(金)▽24日(水)「新春ミニ展」はがき大の小さな絵がいっぱいです。▽2月9日(金)▽21日(水)「花の展覧会」。春にさきがけ花の絵を展示。木曜休廊。☎(555) 8181川崎駅下車。

「ギャラリ華沙里」1月11日(木)▽23日(火)「新春小品0号展」。さまざまなジャンルで活躍の作家66人の0号の作品を展示。▽1月25日(木)▽2月6日(火)「薮野圭一水彩画展「四季の草花」▽2月22日(木)▽3月5日(火)「清原司都子展」リトグラフによる作品を中心に展示。☎(954) 2333新百合ヶ丘駅下車。

「川崎市市民ミュージアム」1月15日(月)まで「満洲・シベリア」江成常夫+新正卓 二人展」▽1



月28日(日)まで「現代写真の動向 ANOTHER REALITY」▽2月18日(日)まで「漫画にみる1945年」▽特別資料室▽9月1日(日)まで「掘り出された川崎」約2万5千年前の石器や縄文土器をはじめ、弥生土器、埴輪などミュージアム所蔵の資料を展示。▽特別展示室「川崎の誇る作家、美術作家の作品を展示。岡本かの子・佐藤惣之助文学コーナー」「濱田庄司室(陶芸)」「安田鞞彦(日本画)」「圓錐勝三室(彫刻)」☎(754)4500 武蔵小杉駅からバス。

「アートガーデンかわさき」1月9日(火) 14日(日)「川崎地名百人一首展」短歌と写真でつづる川崎のいま 馬場あき子、俵万智さんらの川崎の歌を写真とともに展示▽1月16日(火) 21日(日)「あとりとく手編作品展」▽1月17日(水) 20日(土) 96シルバークアワーかわさき「高齢者作品展」・18日「福祉用具展」▽1月23日

日(火) 28日(日)「精修小品展」「書陵展」▽1月30日(火) 2月4日(日)創作版面「水・土・火・風」▽2月6日(火) 11日(日)「宮本知子13月展」☎(222) 8821 川崎駅下車。

「かわさきIBM市民文化ギャラリー」1月18日(木) 2月13日(火)「さまざまな眼」74作間敏宏展」☎(222) 8821 川崎駅下車。

「会館とどろき」1月9日(火) 15日(月)「中原小学校書道展」▽1月16日(火) 30日(火)「青芽会展」(写真)▽2月1日(木) 14日(水)「中原区造形展」▽2月16日(金) 28日(水)「近隣小中学校書道展」☎(733)3333 武蔵小杉駅からバス。

「画廊ランプ屋」1月17日(水) 28日(日)「川邊皓三日本画展」。洋風の題材をモチーフにした日本画展。▽2月21日(水) 3月3日(日)第2回「花・はな・華」展。春恒例の水彩、油、版画の花の絵展。火曜

休廊。☎(945) 441  
6 稲田堤駅下車。

## 読者の声

三味線に生きがい  
地域の人と楽しく

宮前区平、神崎早苗さん  
「Stage Up」を毎号楽しく読ませていただいています。私は「ほんねインタビュー」いまを話すが好きです。取材にご苦労もおありでしょう。

ところで、私どものグループ「苗の会・小唄・俗曲をたのしむ会」の記事を5月号に載せていただき、お年寄り1人が「老化防止」と入会し三味線に生きがいを見いだしたようです。私たちも夫婦2人になり、地域の人々と楽しく……と思っています。

お知らせ 小誌の次回発行は3月号で、学習・文化情報の原稿の締め切りは、1月30日(火)です。

## 編集後記

今号の三平でお知らせしていますが、二月五日(月)の午後、第一回Stage Up読者のつどい」が新百合21ホールで開かれます▼「このつどいは読者の企画。ここに大きな意味がある」と呼びかけ人の一人は話しています▼でも「百人前後が出席してStage Upへ厳しい注文を出します。『祝う会』ではないよ」と言われると「ありがたい半面、怖い気もします」というのが、スタツフの偽らざる感想▼ところで「ほんねインタビュー」いまを話す」は四十一回目になり、おもに川崎で活躍している約四十人のゲストが登場しました▼その一人、西村美東士・昭和音楽大学短期大学部助教から、かつて「いまを話す」のバックナンバーを読んで、様々なジャンルの方々が素晴らしい提言や示唆に富んだ発言をされていることに感動しました」と

のお手紙をいただき「ジャンル別索引を作ると便利」との助言を得ました▼それで、当編集チームが、これまでの「いまを話す」をジャンル別に分けてみました▼まちづくり・住民運動、十七人▽文化・芸術、同▽国際化社会、九人▽生涯学習・生きがい、八人▽女性問題・女性の生き方、同▽福祉・医療・高齢者・障害者、六人▽自然・環境、同▽学校・家庭教育、五人▽です▼登場したゲストが約四十人なのに、計七十六人になったのは、一人のゲストが数テーマを話したことがあるため▼縦割り行政の効率性と同時に弊害が指摘されていますが、生涯学習のテーマには、縦割りも横割りもなく無限です▼また、生涯学習の対象が青少年から高齢者までであることは言うまでもありません▼当事業団が市教委所管なのに「まちづくりや女性問題、福祉を掲載するのはおかしい」「ゲストは中高年に限るべき」などという根拠はどこにもないのです。



# 借りるコツ、あります。

あなたのプランにピッタリのローンはどれですか？



## 借りやすいこと。



だんぜん低利でワイドな使いみち。

### カーライフローン

資産が活きる多目的な大型ローン。

### 生き活きローン

一枚で多彩に使えるカードローン。

### マイプラン

家計に負担をかけずに学資づくり。

### 教育ローン

## 返しやすいこと。

★お問い合わせ・ご相談は、お近くの神奈川県労働金庫<しろぎん>へどうぞ。

川崎支店 ☎ 044 (244) 8331

中原支店 ☎ 044 (733) 0161

川崎南支店 ☎ 044 (277) 8211

新百合丘支店 ☎ 044 (989) 1111



かわしん マスコット  
タットちゃん

暮らしの中で、ビジネスで  
いつもお役に立ちたい。  
かわしんは皆様の毎日に  
大きな信頼でお応えします。



大好きです 私たちの街  
**川崎信用金庫**

発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団  
電話 044 (952) 5000 代

〒215 川崎市麻生区万福寺一の二の二、新百合21ビル  
FAX 044 (952) 1350 編集人・田中 園